

ポスター4

ポスター発表(実践)

日本語指導が必要な中学生の初期支援校「みらい」の実践
—在籍校へのソフトランディングのために—

築樋博子(豊橋市教育委員会)

1. 実践の場の特徴

今年度、豊橋市内の小中学校に在籍している「日本語指導が必要な児童生徒」は、小学校が1,056人、中学校が491人で、市内の小学校52校中の22校に、中学校22校中の13校に、日本語指導適応教室が設置されている。

2. 実践の目標

豊橋市では平成30年度より、中学生に特化した初期支援校「みらい」(以下、「みらい」)を開設した。「みらい」では、日本語初期段階の10週間200時間の指導を行う。生徒たちは居住地の中学校に在籍し、週4日(月~木)を「みらい」に通級し、金曜日には在籍校に登校する。生徒たちの在籍校での生活や学習に結びつく指導や支援の仕組みを考えた。

3. 具体的な実践の内容とその課程

在籍校へのソフトランディングのために、次の3つの観点から支援を行っている。

- ①金曜日に在籍校へ登校する生徒への直接支援
- ②「みらい」での様子や指導内容を在籍校の教員と共有する間接支援
- ③「みらい」修了後の在籍校での指導が有効に行われるための継続支援

①では、「金曜日の予定を生徒に知らせる」、「在籍校で教師やクラスメイトと関わることで達成できる課題を持たせる」、「みらい」の教員やバイリンガル相談員を在籍校に派遣する」等、在籍校通級における生徒の不安感を解消し、居場所を作るための工夫をした。

②では、「毎週、指導報告書を在籍校に送付」、「金曜日に、在籍校の国際教室担当者と「みらい」の教員との情報交換の時間を設ける」等を行った。

③については、「通級後半の8週間目に、「みらい」のコーディネーターと在籍校の教務主任、国際担当者、学級担任等と指導計画検討会」「修了時に個別の指導計画の引き継ぎ」等を行っている。

4. 結果と考察

在籍校の教員に行ったアンケートでは、①②に関しては高い評価を得た。③の指導の継続については、今年度から「8週間目の指導計画検討会」を始め、在籍校の多くは、取り出し指導の時間割を工夫し、新たな中期日本語指導の計画を作成している。

付記:松波良宏 浅野ゆかり(豊橋市立豊岡中学校初期支援校「みらい」)